

JAPAN PRIZE NEWS

財団法人 国際科学技術財団

THE SCIENCE AND TECHNOLOGY
FOUNDATION OF JAPAN (JSTF)

〒100 東京都千代田区日比谷公園1番3号
市政会館内
電話03(508)7691(代)

No.7
1990年7月



1990年(第6回)「日本国際賞」は米英仏4博士に 総合化技術、地球科学の2分野で



マービン・ミンスキー博士



ウィリアム・ジェイソン・モーガン博士



ダン・ピーター・マッケンジー博士



ザビエル・ルビション博士

(財)国際科学技術財団が、世界の科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の繁栄と平和に著しく貢献した人々を顕彰する1990年(第6回)日本国際賞の授賞式が、4月17日、東京・国立劇場で行われました。

今年度の授賞対象分野は「総合化技術—設計・生産・制御技術」と「地球科学」の2分野で、世界各国の学者、研究者から総合化技術分野が208件、地球科学分野が455件、計663件の推薦を受け、このなかから米英仏の4博士が受賞者に選ばれたものです。

「総合化技術」では人工知能という学問分野を確立し、人工知能の基本的な理論を提案して人工知能の父と呼ばれている米国のマービン・ミンスキー博士(マサチューセッツ工科大学教授)が、また「地球科学」ではプレートテクトニクスを創始

し、そのモデル展開に多大の貢献をして、地球科学および関連分野の進展に画期的な影響を与えた業績により米国のウィリアム・ジェイソン・モーガン博士(プリンストン大学教授)、英国ダン・ピーター・マッケンジー博士(ケンブリッジ大学教授)、仏国ザビエル・ルビション博士(エコール・ノルマル・シュペリエール教授)の3博士が共同受賞しました。



JAPAN PRIZE

天皇皇后両陛下の御臨席を賜わり 厳かに授賞式を挙行

授賞式は、天皇皇后両陛下の御臨席を賜わり、内閣総理大臣、衆参両院議長、最高裁長官、文部大臣、科学技術庁長官ら政・官界代表の他に、在外国大公使並びに財界・著名な学者・研究者、言論界代表等約1,000名が出席し、厳かに挙行されました。

式典は、この日のために新しく作曲された「日本国際賞式典序曲—Overture Japan」（三木稔作曲）の演奏で幕あけとなり、横田喜三郎財団理事長の開会の辞、向坊 隆審査委員長による審査結果報告および受賞者の紹介、各分野部会長の贈賞理由の説明に続き、2分野4博士に日本国際賞の賞状、賞牌および副賞5,000万円（共同授賞の3博士は5,000万円を等分）が横田理事長より贈られました。

受賞挨拶でミンスキー博士は「来るべき科学新時代の幕あけを控え、私は受賞記念講演で、新理論を提案するつもり」と今回の受賞を機に、新たな決意を述べました。また、共同受賞の3博士も「科学の研究はまさに国際的行動であり、自分の国より他の国から表彰していただくことは特別の喜びを与えてくれる」（マッケンジー博士）などと、それぞれの受賞の喜びをスピーチされました。



天皇陛下の
おことば(抜粋)

4博士の業績は、現代の世界にとって極めて意義あるものと思います。これらの業績は様々な学問の分野の発展に寄与してきたばかりでなく、人類の生活に深く結び付いているものであります。4博士の業績に対し、深く敬意を表します。

今日、科学技術の進歩には著しいものがありますが、私どもはその成果がいかに人類全体の幸福に資するかという視点を失ってはならないと思います。この意味において日本国際賞が人類の平和と繁栄に貢献した科学技術者を対象として設けられていることは真に意義深いことであり、今後とも、斯界においての寄与を切に望むものであります。



日本国際賞週間

国際科学技術財団は、4月15日からの一週間を「日本国際賞週間」とし、授賞式・祝宴の他にも東京・大阪で記念講演会を開催するなど各種行事を行いました。



受賞者記者会見 (4/16)

合同記者会見（日本プレスセンター）に臨む4博士。総合化技術、地球科学の両分野ともマスコミ側の関心が高く、4博士に対して多くの質問が集まりました。



都知事表敬 (4/17)

4博士は夫人同伴で鈴木都知事を表敬。都知事はとくに地球科学に興味をもたれ、この分野の受賞3氏に地震関連の質問を熱心にされていました。

JAPAN PRIZE



厳かに、そして華やかに 両陛下御臨席のもと祝宴開かれる

授賞式に引続き、同日夜、東京・赤坂プリンスホテルにおいて天皇皇后両陛下の御臨席のもと、政府代表、在日外国大使および各界名士約400名を招いて、盛大に祝宴が催されました。

今回の祝宴は、前回までの演出基調である“厳肅さ”に、新しく日本の春を表現する“華やかさ”が加わり、祝宴全体の演出トーンが多彩なものとなりました。

横田理事長の挨拶で始まった祝宴は、ディナーのあと受賞4氏の栄誉を讃えて天皇陛下に乾杯の御発声を賜わり、続い

て三権を代表して草場良八最高裁長官から受賞者夫人の内助の功を讃えて乾杯、花束の贈呈、また大島友治科学技術庁長官による日本国際賞のますますの発展と世界の平和と繁栄への寄与を祈念して乾杯が行われた他、鈴木都知事、在日外交団を代表してコートジボアール共和国特命全権大使コフィ閣下からも祝辞が述べられました。

最後に受賞4氏が若き日に学ばれた大学のカレッジ・ソングを千葉大学合唱団が合唱、宴の雰囲気がいっそう和やかになったなかで、受賞4氏を代表してマービン・ミンスキー博士、ザビエル・ルビション博士の両氏がそれぞれ謝辞を述べられ、厳肅かつ華やかな宴も終宴となりました。



記念講演会 (4/18、19)

記念講演会を東京・イイノホールと大阪・MIDシアターで開催。両会場とも立見ができるほどの盛況で、講演の4博士にも熱が入り、東京の講演会では大幅な時間超過となりました。



ほっとひととき (4/20)

花と緑の万博会場を訪れた4博士ご夫妻。公式行事も終わりに近く、リラックス・ムードで“花と緑”を楽しんでいました。

カツィール博士(イスラエル) 受賞時の現地の思い出



門田省三迎賓館長
(元イスラエル大使)



川村皓章
国際科学技術財団常務理事

1985年、第一回日本国際賞「バイオテクノロジー」分野で受賞されたイスラエルのE・カチャルスキー・カツィール博士。優れた科学者であると同時に、第4代大統領(1973~78年)を務められた指導者でもあります。同博士に受賞の報を最初にもたらされた、当時のイスラエル大使門田省三氏(現迎賓館長)に思い出をお聞きました。聞き手は当財団の川村常務理事。

館長：東京の外務省から連絡を受けまして、一刻も早く博士のご自宅に電話を差し上げたことを記憶しています。ジャパンプライズという名称でもおわかりのように、日本の官民の総力を結集した賞であり、ノーベル賞に匹敵するものを目指している、と説明しますと「光栄です。有り難くお受けします。」と大変喜んでおられました。別件で外務次官にお会いした時も「イスラエルにとっても名誉です。」と感謝されました。マスコミ界にも博士に申し上げたような点を説明しました。イスラエルの人口は400万人強と大変少ないんです。その割にはマスコミが発達している情報化社会ですから、大多数の国民が博士の受賞を知ったと思いますよ。

館長：カツィール博士は第4代大統領でしたが、初代のハイム・ワイツマン博士も著名な科学者だったんです。シオニストの指導者でもありましたが、彼が亡くなられた後、アインシュタイン博士に大統領就任を要請したという話もあるくらいですから、もともとそういう下地があるんでしょう。

館長：イスラエル大使としての私の任期は83年から86年までです。赴任当時、両国の関係・交流はいろいろな事情があつて、それほど活発ではありませんでした。博士の受賞は、両国の友好関係の促進に寄与したものと思います。ジャパンプライズは選考にあたって業績だけが重視されます。国籍、人種、宗教などはいつさい問われない、極めて厳正な選考方法で行われていると聞いています。純粋にやっていると思わぬよい結果を生むことがありますが、両国の外交関係の良化はそのよい例ではないでしょうか。

1991年(第7回)「日本国際賞」 の受賞者審査始まる。

「応用数学」と「医用画像技術」の2分野

1991年(第7回)「日本国際賞」の授賞対象分野は「応用数学」と「医用画像技術」の2分野です。すでに全世界から多数の推薦状が集まっており、現在、国際科学技術財団に設けられた日本国際賞審査委員会によって審査が行われています。受賞者の発表は来年2月、授賞式は来年の4月を予定しています。

「やさしい科学技術セミナー」 毎月開催

国際科学技術財団は日本国際賞の顕彰のほかに、科学技術に関する知識や思想の普及・啓発をはかるため、内外の著名な先生をお招きして、毎月(原則として第4水曜日於：星陵会館、千代田区永田町2-16-2、電話03-581-5650)講演会を開催しています。

科学技術のいろいろな分野にわたり、今日の興味あるテーマを、わかりやすくお話しいただいております。平成2年度12月までの予定は次の通りです。

講師	予定テーマ	開催月日
千葉大学薬学部教授 山崎幹夫	薬が世に出るまで —作用と副作用—	2. 7. 25(水)
竹中工務店取締役 黒岩博之	東京ドームの技術開発	2. 8. 22(水)
大阪学院大学教授 大村皓一	コンピュータ・グラフィック	2. 9. 26(水)
気象庁予報部長 新田 尚(たかし)	天気予報は、このようにして正確を期している	2. 10. 24(水)
未定	低公害自動車の現状と展望	2. 11. 28(水)
東京大学名誉教授 渥美和彦	人工臓器への期待	2. 12. 26(水)



財団のある市政会館(東京・日比谷)